

♪2012給食・食ありがとう集会♪

鳥取市立城北小学校

鳥取市立城北小学校で、全国学校給食週間（1月24日～30日）に合わせて、『2012給食・食ありがとう集会♪』が開催されました。

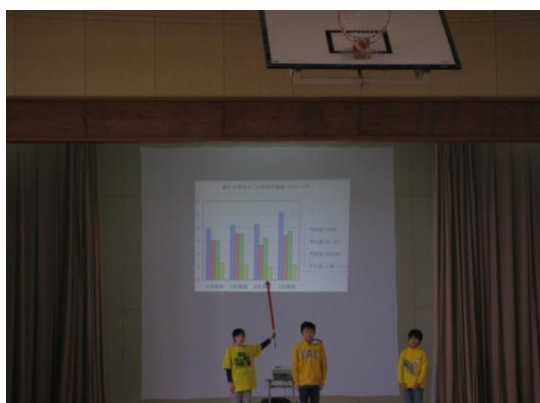


今年のテーマは『日本型食生活と地元の食材で元気いっぱい』。
給食委員会児童が、ブルーマン、イエローマン、ブラックマン、グリーンマン、レッドマンに扮し、「城北小学校よい食プロジェクトチーム」を結成しました。

ブルーマンは、学校給食がご飯を中心とした『一汁二菜』であることを紹介し、日本型食生活のお手本であると発表しました。

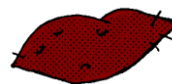


イエローマンは、残菜調べの結果を発表しました。お汁調べの結果では、9月まで残りやすい傾向にあったが、給食委員の呼びかけや、各クラスの取り組みにより、10月以降は残菜が減ったという報告がありました。



ブラックマンは、献立表や毎月19日食育の日『とっとりふるさと探検日』のポスターに掲載されている地場産物に係る内容をヒントに、三択給食クイズを出題しました。

「鳥取市の給食に出てくるかには、どこで水揚げされているでしょうか？」の問いに、多くの児童は『①番の鳥取港!』と自信満々に答え、給食委員が正解を発表すると、歓声とともにガッツポーズで盛り上がりました。クイズを通して地場産物への理解を深めることができました。



グリーンマンは、学校給食に使われている白ねぎの生産者さんを訪ねて、実際に白ねぎの畑を見たり、生産者の方のお話を伺ったりしたときの様子を身振り手振りで再現しながら発表しました。

白ねぎはどこからどこまでがはっぱ?くき?根?の疑問もすっきり解決し、白ねぎは熱を加えると甘みが増すことや、白ねぎのおすすめの食べ方について教わりました。





レッドマンは、学校給食に鳥取港で水揚げされた魚介類が多く使用されていることから、実際に鳥取港や魚介類を加工している中村商店に見学に行った時の様子を発表しました。

鳥取港では、水面がきらきら輝く日本海、漁船や漁師さん、加工施設の様子を実際に見て、鳥取の豊かな自然と、給食が自分たちのところへ届くまでには、たくさんの方が関わっておられることを知る機会となりました。

パフォーマンスを取り入れたパワーあふれる発表から、取材して自分たちの地域のことを再発見した喜び、感じたことを全校児童や先生に伝えたいという熱意が伝わってきて、見ている私も鳥取に生まれ育ってよかったと感じました。

給食衣を正しく着る、脱ぐ、たたむことを『みんなの給食衣のプロジェクト♪』と題した城北小学校オリジナルソングに合わせて、給食委員がお手本となり、各学年代表児童が実際に行いました。

ピアノの生演奏と給食委員の歌声に、会場は和やかな空気に包まれました。

音楽に合わせることで、にっこり笑顔で手際よく給食衣を身に付けたり、たたんだりできることのすばらしさ、身なりを整えることの大切さを学びました。



最後は、給食委員の♪さかなさかなさかな～の振り付きの歌に合わせて、全校児童そして先生方も一緒に盛り上がりました。寒さが身にしみるこの季節だというのに、城北小学校の体育館はあっという間に熱気に包まれました。

この一体感に、何かとても大切なことを教えてもらったような気がします。それは、給食委員や指導して下さった先生の温かい思いが、見ている全校児童や先生に伝わった証しであると感じました。大成功！拍手喝采です♪



鳥取市では、学校給食に地場産物をより多く取り入れ、それを生きた教材として活用した食に関する指導や食育を推進しています。地場産物を活用することにより、自分たちの住んでいる地域の自然、食文化、産業について理解を深めたり感謝の心を育むなど、より効果的に食育をすすめることができると考えます。

城北小学校『給食・食ありがとう集会』に参加し、給食委員会児童の活動、給食集会の創作や演出、表現力に圧倒され、そのいきいきとした表情にまた感銘を受けるとともに、食育の原点についてあらためて考えました。学校給食を通じて、子どもたちが地元のことを知り、地元の食べ物を食べる喜びにつなげていけるよう学校・地域・家庭が連携し、食育の輪を広げることのすばらしさを多くの方に伝え、子どもたちがさまざまな体験を通して、食への理解や食の正しい知識の習得と、実践力を身に付けることを目指してこれからも取り組んでいけたらと思います。

城北小学校の給食委員会児童のみなさん、ご指導くださった先生、全校児童のみなさん、先生方、それから取材にご協力いただいた生産者の方々に感謝です。ありがとうございました。